

令和6年度 北九州市立門司海青小学校家庭学習の手引き

小学校の学習は、将来児童が社会人として自立するための基礎となる大切なものです。学校でも学習内容が定着するように日々努力しています。さらに、学校で身に付けた基礎的・基本的な内容を定着させるためには、家庭学習で復習することが欠かせません。

そこで、家庭においてどのような学習を行うとよいかをお示しする家庭学習の手引きを作成しました。どうぞご活用ください。

Ⅰ 家庭学習のポイント

家庭学習を進めるための3つのポイントと6つの具体的な内容です。一度にすべてを取り組むことは、難しいと思います。各家庭の事情に合わせた内容や方法をお子様と話し合い、進めてください。

以下に示すものを、日常のチェックポイントにしてください。

ポイント1 基本的な生活習慣を見直しましょう。

早寝・早起き・朝ご飯、朝の排便を大切にしましょう。

ポイント2 家庭の学習環境を整えましょう。

決まった場所で一定の時間、テレビを消して学習に集中しましょう。

ポイント3 学習習慣の定着を目指しましょう。

基本的な学習習慣や自学自習の習慣を身に付けましょう。

① 決まった時間に毎日こつこつしましょう

学校では、各学年に応じた宿題を毎日出しています。家庭学習はとにかく毎日続けることが大切なのです。家での勉強の時間の目安は、学年×15分程度がいいでしょう。家族で十分に話し合い、実行していきましょう。

② 集中して学習しましょう

学力を伸ばすためには、集中して学習に取り組むことが大切です。長時間学習することで成果が上がるとは言えません。短時間で集中して勉強することが長続きのこつです。

③ 家庭学習をしている時は、テレビを消しましょう

テレビを見ながら、おやつを食べながらの「ながら勉強」はやめて、集中できる環境を作り学習を行いましょう。

④ 整頓された場所で、よい姿勢で学習しましょう

まずは、机の整理整頓。そして、よい姿勢で学習するようにしましょう。漫画やゲームなど、気が散るようなものが近くにあると学習に集中できません。本人が安心して落ち着いて集中して学習できる環境づくりが大切です。

⑤ 子どものがんばりを認め、ほめて励ましましょう

親や教師が、子どものがんばりを認め、誉めたり励ましたりすることにより、自信が付き、進んで学習しようという意欲が高まります。強制したり、間違いをきつく叱ったりすることは逆効果になります。

⑥ 学力アップのために規則正しい生活をしましょう

「早寝、早起き、朝ご飯」は、生活リズムの大原則です。生活のリズムを整えることが学力向上につながることは、調査でも明らかになってきています。学校でも家庭でも生き生きと元気に学習に取り組めるように、早寝、早起きをし、朝ご飯を食べるようにしましょう。就寝時間は、それぞれの家庭の事情があるかもしれませんが、十分な睡眠時間をぜひ確保したいものです。

2 家庭学習の方法

- (1) 最初に、担任から出る「宿題」に取り組むようにしましょう。
- (2) 時間が余ったら自主学習参考例の中から選んで取り組むようにしましょう。学習内容を自分で考えるのもよいです。
- (3) 読書も自主学習の一つです。読書する習慣を付けるようにしましょう。
- (4) 必ず机に向かうようにしてください。「机に向かう」という習慣が大切です。
- (5) 勉強が終わったら、次の日の準備をするようにしましょう。（「準備」は大切な活動です。）鉛筆を削り、学習用具を整えるようにしましょう。

【自主学習参考例】

国 語	算 数	社会・理科・総合等
・漢字練習 ・漢字ドリル ・意味調べ ・ことわざや四字熟語など言葉調べ ・日記 ・音読・視写 ・読書 ・テストのやり直し	・計算練習 ・教科書の問題 ・百ます計算 ・テスト前の学習のまとめ ・テストのやり直し	・学習課題に向けて ・学習した内容や関連した、興味のある内容を身の回りにある資料を使ってまとめる ・授業で学習したことをノートにまとめる ・テスト前の学習のまとめ
日常生活	・読書をしましょう。 ・国語辞典、漢字辞典、その他の図鑑を身近に置いて調べましょう。 ・日本地図、世界地図、地球儀を身近に置いて調べましょう。 ・小学生新聞など、新聞に目を通してみましょう。 ・ニュース番組を親子で見て、話し合みましょう。 ・自然や生き物とふれあい、観察してみましょう。 ・詩歌の暗唱をしましょう。 ・余裕があれば、市販のドリルや問題集にも取り組んでみましょう。 ・家の仕事を進んでみましょう。	

3 各学年の家庭学習について

学年の発達段階による家庭学習の姿の目安を表にしました。

低学年（1・2年）	中学年（3・4年）	高学年（5・6年）
・学校の宿題はできる。 ・毎日、家でも学習しようという気持ちになる。	・学校の宿題は確実にできる。 ・宿題以外にも少しずつ自主的な学習ができる。	・学校の宿題を確実にやり、自分の力を知る。 ・自分の興味や必要性のある自主学習ができる。

そして、「各学年の家庭学習について」もとに具体的な家庭学習の進め方を次のページに掲載しています。各学年の子どもたちの実態に応じた保護者としてのかかわり方や学習の重点箇所などについてまとめているので参考にしてください。

GIGA 端末を使った家庭学習

全学年において、北九州市から配布された GIGA 端末を使って、ドリル学習などを行うことができます。ドリル学習ができるソフトは、下記で紹介している本校が採用している「スマイルネクスト」です。「スマイルネクスト」の使用方法については、学校で児童に指導を行っています。ドリル学習以外にもインターネットを活用した調べ学習やタブレットで日記を書くなどの学習に取り組むこともできます。

※1年生につきましては、教育課程の進捗状況を踏まえ6月から取組を予定しています。

学校と家庭をつなぐ学習ドリルソフトのご紹介

～「スマイルネクスト」～

本校では、家庭学習や自主学習の選択肢の一つとして、学校と家庭の両方で使えるドリルアプリを導入しています。今年度は、共同購入費990円をご家庭に出していただき、全児童の GIGA 端末に導入しています。

学校では、朝学習や教科の補充学習に使用しています。自分で課題を見つけて問題を解き、答え合わせをしたり、やり直しをしたりできるので、自主学習に最適だと思います。

学校で児童に指導を行っていますが、使用方法をお知らせします。

- ① タブレットのアプリのショートカットを開きます。



- ② 児童のタブレット情報カードのタブレット ID とパスワードを入力します。

★一度入力したら、次回からは入力しなくても

ログインできます。

★パスワードが必要な場合は、
情報カードを持ち帰らせます。

r○○○○○○○○○
7けたの数字

- ③ スタート画面から、ドリルを選びます。

- ④ 学年・教科・内容を選びます。



<利用における留意点>

- ・タブレット端末活用マニュアルをご覧になられて、タブレットを使用されてください。
- ・スマイルネクストへの問い合わせは、
<https://ju-st.jp/smilenext/home/>



低学年（１・２年）

目標時間 15～30分

基本的な学習習慣を身に付けよう

低学年（１・２年）では、「早寝・早起き」「規則正しい食事」「朝の排便」など基本的な生活習慣を身に付けることが学習習慣の定着に欠かせません。家族の助けを借りながら、学校での学習を受け学習内容や方法を決め、出来たことを誉めることによって興味・関心を引き出し、意欲を高めることができます。

学習の特徴

45分を1時間とした授業の中で「読み、書き、計算」などの基礎的・基本的な内容を学習します。その中には繰り返し練習することで力が付く学習内容がたくさんあります。「正しい姿勢で座る」「鉛筆を正しく持つ」「明日の授業の準備をする」「身の回りの整理整頓をする」ことが、学習の基本になります。生活と結び付いた学習が多く、具体物を使ったり、実際に体験したりする学習が中心になります。

家庭でのサポート

- 学習を始める前にテレビなどを消しましょう。勉強をする場の整理整頓をしましょう。
- 学校からの連絡やお便り、明日の授業などを子どもと一緒に確かめましょう。
- 家庭学習をする時は、始める時間、終わる時間を決めましょう。
- まずは、毎日宿題をやりとげること続けましょう。
- 一緒に買い物をしたり、時計をよんだりしながら、子どもの生活経験を増やしましょう。

家庭学習の内容

国語	音読	○ 楽しみながら、大きな声で読めるようにしましょう。
		○ 句読点（「、」や「。」）に気を付けて、すらすら読めるように練習しましょう。
		○ 毎日続けて練習しましょう。
	漢字	○ 書き順や文字の形に気を付けて書きましょう。
		○ 正しい姿勢で、丁寧にゆっくり書きましょう。
	読書	○ 子どもの興味や関心、学年に応じた本をまわりに置きましょう。
		○ 読み聞かせが大切です。
算数		○ 計算力を向上させるためには、まずはゆっくり正確に計算できるように、正しい計算手順を確実に身に付けましょう。
		○ 正しく計算できるようになったら、徐々に速くできるように練習しましょう。
		○ 間違った問題は必ず見直し、もう一度やり直すことが重要です。
その他		○ 生活科で動植物の観察をしたりすることも大切なことです。
		○ 楽しかったことやうれしかったことを、自分の言葉で絵日記や日記に表現しましょう。
		○ 家庭での援助として、音読を聞いたり感想を言ったりすることが大切です。子どもとのコミュニケーションを増やしてください。

中学年（3・4年）

目標時間30～60分

自主的な学習習慣を身に付けよう

中学年（3・4年）では、自立心が芽生えてくるとともに、自主的に取り組みことが多くなり「やる気」や「根気」が育つ時期です。語い（言葉）の獲得能力が高くなり、抽象的な思考ができるようになっていわれています。「急に勉強が難しくなった」という戸惑いや苦手意識をもつ子どもも出てきます。自信をもたせたり意欲をふくらませたりするような励ましが大切です。

学習の特徴

- 社会、理科、総合的な学習の時間や外国語活動の学習が始まり、学習する内容が大きく広がります。
- 国語辞典や漢字辞典、地図帳などの使い方を学び、自分で調べる学習をすることが多くなり、自学自習の基礎を学びます。
- 算数では、四則計算（＋、－、×、÷）の基礎・基本を徹底して学ぶとともに、分数や小数など少しずつ抽象的な内容も学ぶようになります。
- 漢字練習や計算練習等で、答え合わせを児童が自分で行い、どこで間違えたか書き直す自学自習の力を付けます。

家庭でのサポート

- 家族の温かい助言や励ましの言葉、宿題や持ち物の点検などの手助けで、子どものやる気を起こすことが大切です。徐々に自分でできるように支援していきましょう。
- 自分から机に向かう姿勢を育て、集中して取り組む習慣を付けることが大切です。
- 学習する前に、学習する場所の整理整頓を行い、自分で今日の宿題を確認させ、必ずやりとげるようにしましょう。学校からのお便りなどを親に手渡す習慣を付けましょう。

家庭学習の内容

国語	音読	○ 毎日音読をする習慣を身に付けましょう。
		○ 文章を正確に読むことができるようにしましょう。
	漢字	○ 正しい書き順で、正確に文字が書けるようにしましょう。
		○ とめ、はね、はらいに気を付けて、丁寧に繰り返し練習しましょう。
	読書等	○ 色々な種類の本を選んで読むようにしましょう。
		○ 国語辞典や漢字辞典を手元に置き、使い方に慣れるようにしましょう。
算数	○ 読書した後の感想や自分の考えを書いてみましょう。	
	○ かけ算やわり算など正しい計算手順が身に付くよう、毎日練習しましょう。	
	○ 三角定規や分度器、コンパスなどが正確に操作できるよう繰り返し練習しましょう。	
その他	○ 計算などの答え合わせを自分で行い、間違いの書き直しをしましょう。	
	○ 学校で学習した内容を振り返り、自分の苦手なところや、計算や漢字の練習をしてみましょう。	
	○ 日記や作文などの書く機会を増やしましょう。	
	○ 社会や理科で勉強する地域社会の文化や産業、自然に触れる体験をしましょう。	
	○ 音楽のリコーダーや鍵盤ハーモニカの学習で習った曲の練習をしましょう。	

高学年（5・6年）

目標時間60～90分

自学自習を計画的に進めよう

高学年（5・6年）では、生活のリズムの乱れは学習習慣にも影響を及ぼします。もう一度生活習慣を見直し、計画的に学習を進めることが重要です。学習に対する意欲や興味・関心を高めるために、先生や家族の言葉かけが大切になります。目標を決めて、努力できるように、温かく見守りながら励ましましょう。

学習の特徴

- 自分の課題や目標に向けて、計画を立てて学習する力を付けます。
- 漢字練習や計算練習など答え合わせを児童自身が行い、どこで間違えたのか自分で考えて書き直しをする力を確実に付けます。
- 学習内容が多くなり、論理的な内容や抽象的な思考を伴う学習が増えます。
- 筋道を立てて考える力や広い視野で物事を見る力が必要になります。
- 家庭科の学習が始まり、衣食住の基礎・基本を学びます。
- 自ら学ぶことのおもしろさや楽しさを経験することで、ものの見方や考え方を深めることができます。

家庭でのサポート

- 自我が目覚め、自分の考えを主張できるようになります。しっかり聞いてあげましょう。
- 認めたり励ましたりすることで、「自分を大切にする」自尊感情を育てましょう。
- 家族の一員として、お手伝いや役割を決め、学校で学習した内容を生活の中で実践したり、生かしたりすることができるようにならしましょう。

家庭学習の内容

国語	音読	○ 情景を思い浮かべながら登場人物の心情を想像し工夫して読むなど、自分のめあてを決めて練習をしましょう。
		○ 詩や俳句などを暗唱したり、朗読したりしましょう。
	漢字	○ 漢字の構成や字形を意識して練習しましょう。
		○ 短文づくりにも取り組みましょう。
	読書等	○ いろいろな種類の本を選んでたくさん読むように心がけましょう。
		○ 国語辞典や漢字辞典を手元に置き、使い方に慣れるようにしましょう。
算数		○ 計算力を向上させるために、よく間違える計算は繰り返し練習しましょう。
		○ 答えの確かめ、間違えた部分の書き直しを確実にできるようにしましょう。
		○ 新しく学習する内容を予習して、学習の見通しをもてるようにしましょう。
その他		○ 学校での学習内容を振り返りながら、教科書やノート、プリントなどを参考にして、自主的に学習したり、苦手な内容に取り組んだりしましょう。
		○ 日記や自主学習など文章を書く機会を増やしましょう。
		○ 興味のあることや得意な分野での調べ学習を行いましょう。